



写真提供・取材協力＝
JX 日鉱日石エネルギー株式会社
JX-ENEOS サンフラワーズ

新原

JX-ENEOS サンフラワーズ 主将

努力は裏切らない

3月19日の代々木第二体育館。ファンに向かい、万感の思いで優勝カップを掲げる選手がいた。
新原茜さん29歳。

所属するJX・ENEOSサンフラワーズは、バスケットボール女子日本リーグ5連覇を果たした。チームが獲得した全国タイトルはこれで35回。記録は国内最多を誇る。

キャプテンを務めるのが、市出身の新原選手。思いきりの良いプレーが持ち味で、コート外でもチームメイトから「しっかり者のお姉さん」と慕われている。

小林高校の女子バスケットボール部時代から双子のプレーヤーとして注目を集めてきた。平成15年1月に開催された全国大会（ウイ



バスケットボール女子日本リーグで5年連続16回目の優勝を果たしたJX-ENEOS サンフラワーズ。キャプテンを務めるのは、市出身の新原茜さん。チームの精神的柱として活躍する新原さんをご紹介します。

茜

インターカップでは、ベスト8。U・18女子アジア大会の選手に選ばれ、国際大会にも出場している。高校時代の恩師西田次良監督は、当時の新原さんを「攻撃型ガードの鬼」と評する。突出した運動能力を生かしたドリブル突破が武器。負けん気も人一倍強く、部を数々の勝利に導いた。始めたきつかけは、3歳上の兄利彦さんの影響。小学生でミニバスケットを始め、小林中、小林高校と姉早希さんと共に汗を流し、社会人になるまで同じチームの主力として活躍した。実績は栄光に彩られているが、その陰には多くの挫折と苦悩があった。中学時代には、けがも多

く、思うようにプレーができない時期も。実業団チャンピオンであったジャパンエナジー（現JX日鉱日石エネルギー株式会社）に進んだあとは、先発に選ばれず、試合に出れない日々が続いた。壁にぶつかるたびに、彼女を支え続けた言葉がある。「神様は乗り越えられる。試練は与えない」。中学校時代の恩師が贈ってくれた言葉だ。今では自身の座右の銘。決して逃げない新原さんの努力は花開く。一昨年はファイナル戦でスタメンとして優勝に貢献。昨年からはキャプテンに抜擢された。子どもたちへのアドバイスを求めると「努力は裏切らない。辛いときも目標に向かって諦めず頑張つて」とエールを送った。今年の目標は「連覇を目指し、昨年逃した皇后杯も奪還」と力強い。座右の銘をそのままに、これからも前に向かい、ゴールを狙い続ける。

にいほら あかね 新原 茜さん

小林市上町区出身のバスケットボール選手。1984年4月13日生。JX・ENEOS サンフラワーズ所属。ポジションはガード。小学校でミニバスケットボール部へ。卒業後、ジャパンエナジーに入社。チームのキャプテンとしてメンバーを支えている。